

学校運営計画				
教育方針	「生徒一人ひとりを大切に」することを基本に据え、「自ら学び、自ら考え、自ら行動する自立(自律)した人間を育てる」ことを教育目標とし、「自己を磨く」「人とのコミュニケーションを図る」「社会と繋がる」能力の獲得を達成し、「部活で燃えろ！進路で輝け！」を合言葉に、「全国に名高い部活動・進学校」を目指す。			
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
成果： 野球部の甲子園1勝は特筆すべき成果であった。また、女子バスケットボール部がウインターカップ県予選で初優勝し全国大会に出場するなど、多くの部が成果を挙げ全国大会でも活躍した。生徒募集では、今年度入学者を大幅に増加させることができた。 課題： 生徒指導の徹底が課題であった。入学確保、家庭学習定着、ICT活用、プログラム制、国公立大合格増が引き続き課題となる。また、通信制課程が3年目をむかえ運営体制の完成年度となる。		(1) 生徒指導 基本的生活習慣の確立	①生徒・保護者とのコミュニケーションを密にする。 (聞く⇒聴く⇒訊く⇒有効な指導) (hear → listen → ask → good advice)の徹底 ②小さな変化も見逃さず、毅然とした指導を徹底する。	
		(2) 募集 広報活動	①広報委員会主導による全員広報で、志願者増加を図る。 ②情報収集と現状把握に基づき魅力化の拡充を図る。	
		(3) 進路希望 実現	①キャリア教育の視点に立った進路学習を推進する。 ②生徒の進路第一希望達成100%を目指す。	
		(4) 学習指導 の充実	①ICT活用など質の高い授業を実施し、学力向上を図る。 ②主体的に学習に取り組む態度を育成する。	
		(5) 特別活動 の充実	①文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。 ②生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。	
		(6) 学校経営 校内研修等	①通信制課程設置計画を着実に履行する。 ②研修の充実等により、意識改革と指導力の強化を図る。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
(1) 生徒指導 基本的生活習慣の確立	①生徒・保護者とのコミュニケーションを密にする。 聞く⇒聴く⇒訊く⇒有効な指導 (hear → listen → ask → good advice)の徹底	生徒指導部	保護者と連携を図り、指導したらその日のうちに連絡し、事案によっては家庭訪問をして安心を促す。 問題行動の未然防止に努め、些細な問題でも迅速に教員間で情報共有する。 人権に配慮しながら初動を怠らないように丁寧に対応する。	
		1 学年	生徒の日常の変化を見逃さないようにする。教員間での情報共有を密にし、後手にならない対応を行う。	
		2 学年	学校生活の中での生徒の変化に気を配り、教員間で情報共有を密にし、学年全体での指導をする。 保護者連絡を徹底し保護者との情報共有を図る。	
		3 学年	生徒・保護者とこまめに面談や連絡を取っていく。 最高学年としての自覚を持たせ、基本的生活習慣の確立を徹底していく。	
		生徒指導部	問題行動が起きた際は法令等に基づき「丁寧に根気強く」「意味を理解させ」「行動が変わるまで」寄り添って指導する。 HR や集会等を利用し規範意識の向上と自覚を高めるために一致した指導を実践する。 規則違反者に対しては「生徒指導報告書」を利用しながら段階的な指導をおこなっていく。	
		1 学年	小さな変化があった場合には、生徒指導報告書等を活用し生徒自身の成長のためにしっかりと指導する。	
	②小さな変化も見逃さず、毅然とした指導を徹底する。	2 学年	学期毎に教育相談を行い、小さな変化を見逃さずに指導する。 学年委員も活用し、集会等で統一した指導を徹底する。	
		3 学年	寝坊等の遅刻、安易な欠席を防止し、集会時には頭髮検査を実施する。最高学年として手本となるよう指導する。	
		広報委員会	高校説明会や教員対象入試説明会などで、在校生を活用して本校への安心感や理解の促進を図る。 オープンスクールでは、全職員でウェルカム感を創出し、プログラム制などの体験型の構成により、本校の特色を伝える。 SNS をはじめ、ホームページや報道媒体を活用して、本校の魅力を発信する。	
		プログラム制運営委員会	各プログラム・講座の企画、調整を行い円滑に実行できるようにする。 プログラム制の課題点を振り返り、次年度に向け修正を行う。 本校の魅力を最大限に外部へ発信するため、広報委員会と連携して広報活動にあたる。	
		1 学年	プログラム制の幅広い講座の中から自身の興味、関心や進路に応じた選択をさせ、充実した高校生活を送れるようにする。	
		2 学年	プログラム制の選択した講座に継続して取り組み、実施したことを着実に身につくように指導する。	
(2) 募集 広報活動	①広報委員会主導による全員広報で、志願者増加を図る。	広報委員会	高校説明会や教員対象入試説明会などで、在校生を活用して本校への安心感や理解の促進を図る。 オープンスクールでは、全職員でウェルカム感を創出し、プログラム制などの体験型の構成により、本校の特色を伝える。 SNS をはじめ、ホームページや報道媒体を活用して、本校の魅力を発信する。	
	②情報収集と現状把握に基づき魅力化の拡充を図る。	プログラム制運営委員会	各プログラム・講座の企画、調整を行い円滑に実行できるようにする。 プログラム制の課題点を振り返り、次年度に向け修正を行う。 本校の魅力を最大限に外部へ発信するため、広報委員会と連携して広報活動にあたる。	
(3) 進路希望 実現	①キャリア教育の視点に立った進路学習を推進する。	進路指導部	生徒自らの興味・関心を軸に課題を発見し、解決を目指す中で身に着けた資質・能力を。次の学びにつなげる。 キャリア教育の視点に立って進路活動に取り組みせ、生徒の成長を促すとともに学力向上に導く。	
		1 学年	さまざまな行事に積極的に参加させ、充実した高校生活を送る中で、多面的な思考が持てるように指導する。	

		2 学年	総合的な探究の時間を活用し、様々な考えに触れ進路選択において多角的な考えができるよう指導する。		
			大学見学を通して将来のビジョンを明確にできるようにする。		
		3 学年	自己が置かれた環境を理解し、それに適応できる能力の獲得を意識しながら進路活動に取り組ませる。		
			進路ガイダンス、講話を通じて「職業的自立心」「社会的自立心」を高め、自分らしい生き方を実現できるように考えさせる。		
		②生徒の進路第一希望達成100%を目指す。	進路指導部 進路指導部ニュース等の進路情報や自身の活動の的確な振り返りにより、より良い生き方の模索を図る。		
			模擬試験や取組みの振り返りを行い、進路実現できる力を養い、希望進路を安易に下げさせない指導を行う。		
(4) 学習指導の充実	①ICT活用など質の高い授業を実施し、学力向上を図る。	1 学年	幅広い進路選択を可能にするために、まずは教員側から情報を与える。その際には、全体指導、個別指導を行っていく。		
		2 学年	進路情報を自ら収集させることにより進路意識を向上させ、面談等も活用し具体的な進路志望を早期に設定させる。		
		3 学年	更に上を目指す意識を持たせつつ、大学等進学率60%以上、就職内定率100%を目指す。		
		教務部	全学年でタブレット端末を活用して、自分の考えや意見を、ICTを活用しながら相手に伝え、他者の考えの良さを発見する場を設定する。		
		国語	模試を意識した授業内容や校内予備校の内容との連携を図り、全体の学力の向上を図る授業を行う。		
	②主体的に学習に取り組む態度を育成する。	数学	ICTを活用し、基礎的な知識の習得を図る。		
		英語	ICT教材を積極的に用いることにより、単語・熟語の習得をはじめ、英文読解や英作文に対する苦手意識を軽減させ、積極的に英語学習に取り組めるよう指導を行う。		
		ICT教育推進委員会	授業や総合的な探究の時間において、タブレット端末を活用し、協働学習をおこなう等で課題解決能力を身につけさせる。		
		教務部	進路を見据えた資格検定を見つけ、より上位級の受検を促し、知識を身に付ける場や学習意欲を高める広報活動を行う。		
		国語	定期的に小テストや課題を課し、評価と学習内容を一体化することで、主体的に学習に取り組む姿勢を醸成する。		
		数学	授業、考査後の反省、家庭学習課題で学習習慣の定着を図る。		
		英語	個々の生徒に対して適切な課題を設定し、基本英文法の定着を図ると共に、英検受験を推奨し学習に向かう姿勢を意識づける。		
		1 学年	基礎学力定着のためにスタディサプリを活用し、週2回程度宿題配信を行う。その中で、学習習慣を身に付けさせる。		
		2 学年	朝活の時間を有効に使い、自主学習や定期考査に向けて計画的に学習に取り組む姿勢を身につけさせる。		
		3 学年	目標を具体的にすることで、課題を明確化し、その実現に向けて能動的に取り組ませる。		
(5) 特別活動の充実	①文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。	生徒指導部	成果を上げるために必要な情報を提供し、関心・意欲を高める。		
			主体的・積極的に取り組む姿勢を育み、社会に貢献できる実行力を身につけさせる。		
			体を鍛え、心を磨き、問題解決できるように困難にも負けない知力や体力を身につけさせる。		
	②生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。	生徒指導部	生徒会の活動を強化し、各種行事において生徒が成就感・達成感を持てるよう取り組ませる。		
(6) 学校経営 校内研修等	①通信制課程設置計画を着実に履行する。	通信制教務室	募集活動をブラッシュアップし、年間定員120名充足達成を全員参画にて目指す。また、来校型オープンキャンパス・オンライン合同説明会など、新たな募集活動を展開する。		
			教務・進路・生徒募集の運営マニュアルに基づき、安定運営の柱を作成し、スクーリング参加率を80%以上にする。		
			オンラインコーチング・進路サポートについて業務整理を行い、すべての生徒が2つのサービスを気軽に利用できるようにし、進級更新95%、進路決定率90%の達成を目指す。		
		教務部	全職員がICTを活用した授業を実践できるように、研修会を実施する。		
	②研修の充実等により、意識改革と指導力の強化を図る。		他校への見学を含めた、自己研鑽ができる機会を設けるよう計画して提案する。		
		進路指導部	進路検討会や外部業者による職員研修の機会を設けるよう計画して提案する。		
成 果				総合評価	

※評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：達成不十分 D：未達成